第 14 回 International Rhinologic Society (IRS) および第 30 回 International Symposium on Infection and Allergy of the Nose (ISIAN)

会長：森山　寛

（東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科学講座教授）

会期：2011 年 9 月 20 日～23 日

会場：ANA インターコンチネンタルホテル東京

第 14 回 International Rhinologic Society (IRS) および第 30 回 International Symposium on Infection and Allergy of the Nose (ISIAN)が、平成 23 年 9 月 20 日から 23 日の４日間、ANA インターコンチネンタルホテル東京にて東京慈恵会医科大学教授の森山寛会長のもとで開催されました。IRS と ISIAN はいずれも、本邦において初回大会が開催された日本発の国際学会です。IRS は、1965 年に第 1 回大会が名古屋市立大学教授（当時）の高須照男先生のもと京都にて開催され、以来 3～4 年間隔で、また最近は 2 年おきに世界各地で開催されています。一方 ISIAN は、1976 年に第 1 回大会が慈恵医大教授（当時）の高橋良先生のもと東京で行われました。ISIAN は毎年開催されていますが、欧州鼻科学会（ERS : European Rhinologic Society）が開かれる年（西暦の隅数

年）には、ERS との joint meeting になります。1987 年には、第 6 回 ISIAN を慈恵医大教授（当時）の本多芳男先生が東京で開催し、さらに 1991 年に名古屋市大教授（当時）の馬場駿吉先生が第 10 回 ISIAN を再び東京で開催しています。

IRS および ISIAN はともに、鼻アレルギーや副鼻腔炎をはじめとする鼻科領域の様々な疾患における基礎研究から臨床に至るまで幅広い分野をテーマとして掲げています。今大会においても、副鼻腔炎、鼻アレルギー、免疫、感染、嗅覚、外鼻形成手術、頭蓋底手術、腫瘍、睡眠医学などについて 13 のシンポジウム、14 のラウンドテーブル、20 の教育講演が行われ、また数多くの一般演題についても活発な討論が繰り広げられました。

学会初日は、大会長による Opening ceremony と Keynote lecture を皮切りに、現在の副鼻腔手術の主流である ESS に関する Plenary session が行われ、続いて基礎研究から臨床まで幅広い分野のシンポジウム（3）、ラウンドテーブル（4）、教育講演（7）や一般演題の発表等が行われました。特に、ESS の創成期に携った Heintz Stammberger 先生や David W. Kennedy 先生ら重鎮の方々による講演を日本に居ながらにして一度に拝聴できるのは、おそらく後にも先にもない事であり感慨深いものがありました。ただ、東日本大震災による学会日程の急な変更により Wolfgang Draf 先生や Aldo Stamm 先生をはじめ何人かの重鎮の先生方が来日できなかったのは残念なことでした。

学会 2 日目は、朝 7 時 45 分から Morning seminar が行われ、引き続いて鼻副鼻腔病態に関する Plenary session、そしてシンポジウム（4）、ラウンドテーブ

ル（4)、教育講演（6)、ワークショップ（1）や一般演題の発表等が行われました。学会 2 日目の一般演題は、鼻科領域の基礎研究に関する話題を中心に構成されていました。この日は折しも台風 15 号が日本列島に上陸し、東京に接近したため 1 日中、強風と断続的な豪雨にみまわれました。しかし、参加者が会場内に缶詰状態になったためか、どの会場も多くの聴衆で溢れ、逆に学会としては盛況でした。

学会 3 日目には、慈恵医大の鴻信義准教授による慢性副鼻腔炎患者に対するライブ手術が行われ、「高橋―森山テクニック」として国際的に名の通った術式を手術室より聴衆で満員の会場へと生中継し、非常に盛況でした。また、この日も Morning seminar と鼻アレルギーに関する Plenary session の後に、シンポジウム（5)、ラウンドテーブル（4)、教育講演（6）や一般演題の発表等が行われました。この晩の Gala dinner では、世界中から集まった招聘演者や参加者とともに、美味しい料理とお酒を堪能し、夜遅くまで語らう機会が与えられ充実した時間だったと思います。

学会最終日は会場の都合上規模を縮小して 2 会場のみとなりましたが、Morning seminar の後にシンポジウム（1)、教育講演（1)、ラウンドテーブル（2）が行われ、会期中のすべての予定を無事終了しました。最終日であるにもかかわらず、最後の講演まで多くの聴衆が会場に残っていたのが印象的でした。

今大会は本来桜が満開となり日本で最も美しい季節である 4 月上旬に開催される予定でしたが、3 月 11 日に起きた東日本大震災とそれに続く福島第一原発

事故により、海外はもとより国内からも多数の参加辞退の申し入れがあり、延期を余儀なくされました。しかし、その逆境にもかかわらず国内外の先生方からとても心温かい応援を頂き、また運営に携わったスタッフの強い意志により、世界40 か国から約 600 名の参加者を迎え盛会に終えることができました。これも招聘演者やご参加頂いた先生方、そして何よりも準備段階より終始多大なるご支援ご指導を賜りました日本鼻科学会のご尽力の賜物であり、心から感謝の意を表したいと思います。